

7月22日(月)

## 神様が語られるとき



2019年7月22日～7月28日

翻訳 藤岡 伸子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第版二を使用しています。

御茶の水キリストの教会

聖書朗読 マルコ 4：35～41

イエスは起き上がり、風をしっかりとつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。

マルコ 4：39

自然は神様が語られるとそれに従います。自然界に自由意志はありません。私たち人間はどうでしょう。神様が語られる時、私たちには、それに従うのか、それとも、無視するのかという選択肢があります。

神様は聖書に記されたみことばを通して私たちに語られます。語られることは常に私たちにとって良いものであり、神様は私たちに最善を望んでおられます。

この全宇宙を形造られ、風や海を静められたのと同じみことばを、今日も、新約聖書を通して私たちに語っておられます。私たちが語られたみことばに従わなかったら、それは、山々を動かす、従う者のいのちを新たに造りかえてくださる神様の御力を無視することとなるのです。

パウロがローマ人への手紙1：16で記しているように、福音は救いを得させる神様の力です。いのちを失い、罪に死んでいく人々が多くいます。彼らは私たちを通して神様のみことばを聞くことを必要としています。「ある人にとっては、あなたが唯一の聖書かもしれない。」と言われるように、神様は私たちクリスチャンを用いて、聖書に接することもないそのような人々に語られます。クリスチャンは、神様に選ばれた、みことばの伝達者なのです。

神様のみことばの内にある偉大な御力を覚えて、それに従い、他の人々に分かち合っていきましょう。神様のみことばに従うとき、世界が変えられるのです。

讃美歌 365

祈り お父様、あなた様の力強いみことばを感謝します。私たちを、それに従いその御力を受け入れられる者としてください。あなた様のみことばを、愛をもって、他の人々と分かち合う者としてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

エリス・ジョーンズ

カリフォルニア州 シトラスハイツ

7月23日(火)

## 虚しい礼拝とならないために

聖書朗読 マルコ 7:1~13

彼らが、わたしを拜んでも、むだなことである。人間の教えを、教えとして教えるだけだから。  
マルコ 7:7

1世紀のユダヤ人指導者たちの間では、真理には、記述されたものと、口で語られ伝えられたものがあるとされていました。彼らは、イエス様との聖書の議論で、イエス様のお考えが彼らのものと一致しなかったため、自分たちの伝統に従いイエス様を非難しました。

イエス様がユダヤの民に大切なこととして教えられたのは、人間の伝統ではなく、聖書に記されたみことば、そして、イエス様が民に教えるようにと神様から与えられたみことばに従う事でした(ヨハネ7:16、14:24)。廃棄されないものは、聖書だけです(ヨハネ10:35)。人もその教えも、聖書のみことば以上に大切にすべきものはありません(I コリント4:8)。イエス様の話されたことばが、終わりの日にその人をさばくのです(ヨハネ12:28)。人それぞれ、また家庭ごとに守っている言い伝えがあるでしょう。けれどもそれらは、みことば以上に優先させるべきものではありません。イエス様は人の言い伝えに縛られてはならない理由として、次のことを挙げておられます。

1. 偽善に陥る(マルコ7:7)
2. 人が中心となり、礼拝が空虚なものになってしまう
3. 結果的に神様の戒めに不従順となる(マルコ7:8~13)
4. 信仰上の分裂を招く

ベレヤの人々のお手本に倣って、神様のみことばを愛し、真理とご指示を求めてみことばに頼っていきましょう(使徒17:10~12)。

讃美歌 501

祈り 親愛なる主よ。あなた様が聖書のみことばをくださり、それによって、あなた様と他の人々をいかに愛すべきかを知ることができたことを感謝します。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

カール・ミッチェル

7月24日(水)

## 永続する幸せへの道

聖書朗読 マルコ8:31~37

幸いなことよ。このようになる民は。幸いなことよ。主をおのれの神とする民は。  
詩篇144:15

書店に行けばどこでも「幸福」に関する書籍を売っているでしょう。また、テレビをつければ「あなたを必ず満足させます」と謳ったコマーシャルで溢れています。まるで、そのような本を読み、コマーシャルの商品や製品を手にしさえすれば、完璧な人生を送れるとでも言っているかのようです。

「あれやこれが実現しさえすれば、幸せを手にすることができるのに」と思う人もいるでしょう。けれども、実際は、富や名声を手にした後、結局「これだけのことか。」と現実に気付くものです。聖書はそうではありません。聖書には、永続する幸せへの道が記されています。それは、相手を思いやる自己犠牲の精神や、とりわけ他者への愛であり、それらがなければ、私たちの歩みは決して安泰とはならないでしょう。

私はこれまで、愛の反対は「憎しみ」だと思っていました。けれども最近になって、愛の反対は「自己中心」ではないかと思うようになりました。自分のことばかり考えている人は、いつまでたっても幸福感を得ることが出来ないと思います。

物質的なものは、一時的には私たちを満足させてくれるかもしれませんが。けれども真の喜びは、愛なる神様によってのみ与えられるものであり、この秘訣を知らずには、いかなる幸せも虚しいものとなってしまいます。

心の傷ついた人を慰めるために、誰でも何かしら与えることができるでしょう。それは時間や才能などに限りません。マルコ12章44節にあるやもめのように、惜しみなくあなたが持っているものを与えるとき、あなた自身と他の人に幸せをもたらすことができるでしょう。神様を知り、その戒めに従うこと、それが、永遠に続く幸福への道なのです。

讃美歌 390

祈り 親愛なる主よ。幸福への道である私たちの主なるイエス様をお与えくださったことを感謝します。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ジョアン・クレイトン  
ニューメキシコ州 ポータレス

7月25日(木)

## 特別なものを見る目

聖書朗読 ルカ 2:6~21

男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。  
ルカ 2:7

何年も前のことになりますが、産院で娘が生まれたときのことです。その誕生は私にとっては人生の節目となる大イベントであり、新しいいのちの誕生によって、あらゆるものがこれまでと違って見えました。

けれども、それは、産院のスタッフにとってはいつもと変わらないことであり、彼らはその日も、いつも通り仕事を終えて帰宅したことでしょう。私たちの特別な出来事、神様から与えられたプレゼントに、彼らは特別に感動することはなかったでしょう。

私たちは、日常目にする雨や木々、陽の光などを特別なものとは捉えていないかもしれませんが、けれども、私たちが、神様のくださったものを特別なものとして見る目を持っていないければ、神様に対する畏れの念は抱くことは出来ません。

イエス様のご誕生もそうでした。殆どの人にとってイエス様のご誕生は、赤ん坊がまた1人生まれたということに過ぎなかったでしょう。けれども、この単なる赤ん坊の誕生と思われるものは、天使の歌声が伴い、また、羊飼いたちはその赤ん坊を拝するために、羊の群れを離れてわざわざ赤ん坊のいる厩にやって来たのです。これが単なる赤ん坊の誕生だったとしたら、不思議ではありませんか。彼らには、この赤ん坊が聖なるものであることが分かっていました。けれども、他の多くの人々は、この出来事に特別に心動かされることもなく、ただ過ぎ去って行ったのです。

このように誕生され、この世を歩まれ、死なれ、そして、よみがえられたこの特別なお方は、今も私たちのいのちの内にあり、あらゆるものを変えてくださいます。けれども、多くの人はそれに気付いていないでしょう。

私たちが見ようとする目と、聞こうとする耳を持つならば、神様は、私たちの単なる日常を、ハレルヤと言える出来事へと変えてくださるのです。

讃美歌 II 161

祈り 創造主なる神様。いのちと美しいものと、見る目、聞く耳をお与えください感謝します。目にするあらゆるもの見て、あなた様の御前にひれ伏し、あなた様を褒め称えます。アーメン。

アンディ・ウォール  
カリフォルニア州 オークパーク

7月26日(金)

## キリストに引き寄せられて

聖書朗読 ルカ 9:18~27

「では、あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」 ルカ 9:20

あなたはイエス様を知った初めの頃、イエス様をどのように捉えていましたか。私は子供の頃は、イエス様を、特別とも思えない遠い存在で、他の時代の別世界の存在のように感じていました。けれども大人になるにつれ、イエス様が私の傍にいてくださり、私がイエス様を知り愛することを望んでおられるのだということが分かるようになりました。

ルカの学びを通して、イエス様がどのようなお方かという点で、新たな姿が見えてきました。イエス様はときに、ご自身を最もよく知っているはずの人々に深く心を痛められ、ご自身の愛する民のために泣かれました。また、冗談を言われ、ユーモアのある皮肉を好まれることもありました。人々はイエス様に触れ、食事を共にし、共に歩みたいと望みました。

イエス様は、ご自身の意志でいつでも御力をお用いになることが出来ましたが、そうはなさらず、相応しいときに、そして、神様の目的のために御力を用いられました。また、イエス様には親しい仲間がおられましたし、決断をなさるときには、夜通し祈られました。イエス様は人々に、単なる日常の出来事と思える事を有効に用いるよう教えられ、また、ご自身を不当に扱う人々をお赦しになりました。そして究極的には、その魂を父の御手に委ねられました。

このようなイエス様を知った今、私にとってイエス様は、かつて描いていたようなお方ではありません。すぐ傍におられ特別なお方です。イエス様は今も生きておられ、私の歩みを導いてくださり、みもとに私を引き寄せてくださっています。

讃美歌 344

祈り 万物の主よ。あなた様がどのようなお方であるかを私たちに示されるために私たちの元へやって来られたことを感謝します。私たちの目を開いて、あなた様をよりはっきりと見させてくださり感謝します。今日も、私たちの目と心を開いて、あなた様により近く歩むことができるようお助けください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ルーシー・ペリン  
テキサス州 ラボック

7月27日(土)

## イエス様がやって来られる

聖書朗読 ルカ 19:1~6

主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下ってこられます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、…

I テサロニケ 4:16

過ぎ越しの祭りまであと一週間と迫った頃、ガリラヤから多くの人々がエリコを目指してヨルダン川を下って来ていました。彼らはそこから、過ぎ越しの祭りの祝いのためエルサレムへと登って行くのです。このエリコを通り過ぎようとする、ひしめき合う群衆の中に、イエス様が通り過ぎるのを目見ようと期待してやって来た男がおりました。しかし、彼はとても背が低かったため、群衆に埋もれてイエス様を見ることが出来ません。そこで彼は、群衆の前方に走り出て、木に登り、群衆越しにイエス様を見ようとしました。すると、イエス様は彼をご覧になり、こう言われました。「ザアカイ。急いで降りてきなさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。」その時のザアカイの驚きはどれほどだったでしょう。想像してみてください。

私たちのイエス様を待ち望む思いはどうでしょう。ザアカイと同じくらい切望しているでしょうか。周りの人たちは、尋ねてみたらどう答えるでしょう。「そんなことは私の考えることではない。」「忙しすぎてそんなこと考える時間はない。」「イエス・キリストが、自分の生きている時代に、再びやって来るなど考えられない。」「そんな事、あなた、本当に信じているの?」このような答えが返って来るのではないのでしょうか。イエス様が今日にも再臨されるということは真理なのです。イエス様がやって来られたら、はっきりとこの目で見ることが出来るでしょう。

あなたも自分に問いかけてみてください。「イエス様を一目見ようと群衆の前方へ走り出て行こうとするくらい、イエス様を心から待ち望んでいますか。」

讃美歌 191

祈り 主よ。あなた様は私たちの心を知り、私たちの未来を知っておられます。どうか私たちが、毎日この世の最後の日と置いて過ごし、いつの日か、あなた様を天の御国で拝することができるようお導きください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ジョージ・V・モーテンセン  
ワシントン州 カークランド

7月28日(日)

## イエス様によって変えられる

聖書朗読 ヨハネ 1:43~51

イエスはナタナエルが自分のほうに来るのを見て、彼について言われた。「これこそ、ほんとうのイスラエル人だ。彼のうちには偽りが無い。」…

イエスは言われた。「わたしは、ピリポがあなたを呼ぶ前に、あなたがいちじくの木の下にいるのを見たのです。」  
ヨハネ 1:47~48

実際より良く見えるように仕上げられた写真を、誰もが好むのではないでしょう。補正された写真は、自分の知っている欠点を隠してくれるものだからです。

イエス様は、ご自分の弟子としてナタナエルをお選びになりました。彼は、疑い深い者ではありましたが、正直で、純粹、そして、イエス様を神の御子だと最初に認めた者であったにも関わらずお選びにならなかったのです。その代わりに、ペテロをお選びになりました。イエス様は、ペテロについて、精神的に落ち込むことがあり、信仰に躓き、約束を破り、さらには、ご自身を否定する者となる事を知っておられました。けれども、そうした欠点には目を留めず、ペテロがご自身のビジョンに従って生きる者となり、やがて「岩」としての存在になるという点に目を留められたのです。

イエス様は、ご自身とその憐れみを必要とする神の子どもをご覧になるとき、その汚れの先にあるものに目を留めてくださいます。表面は色あせてしまった銀のように、汚れの下に隠された美しいものを見てください。イエス様は当時の神の子たち、そして今の私たちにもこうおっしゃっています。「私はあなたの過去を知っている。しかし、大切なのはこれから先のこと。希望は失われる事はない。」

あなたには、自分自身と、そして、周りの人たちに与えられたイエス様のビジョンが見えますか。今日に見えているものではなく、他の人が神様のご栄光を現すためにこれから出来る事に目を留めることができますか。主が変えてくださり、それによってもたらされるものに目を注ぎましょう。

讃美歌 514

祈り 親愛なるお父様。心の清さをあなた様に祈ります。そして、あなた様がご覧になると同じように、他者を見ることができるようになしてください。イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

アニタ・プライス  
テキサス州 ラボック